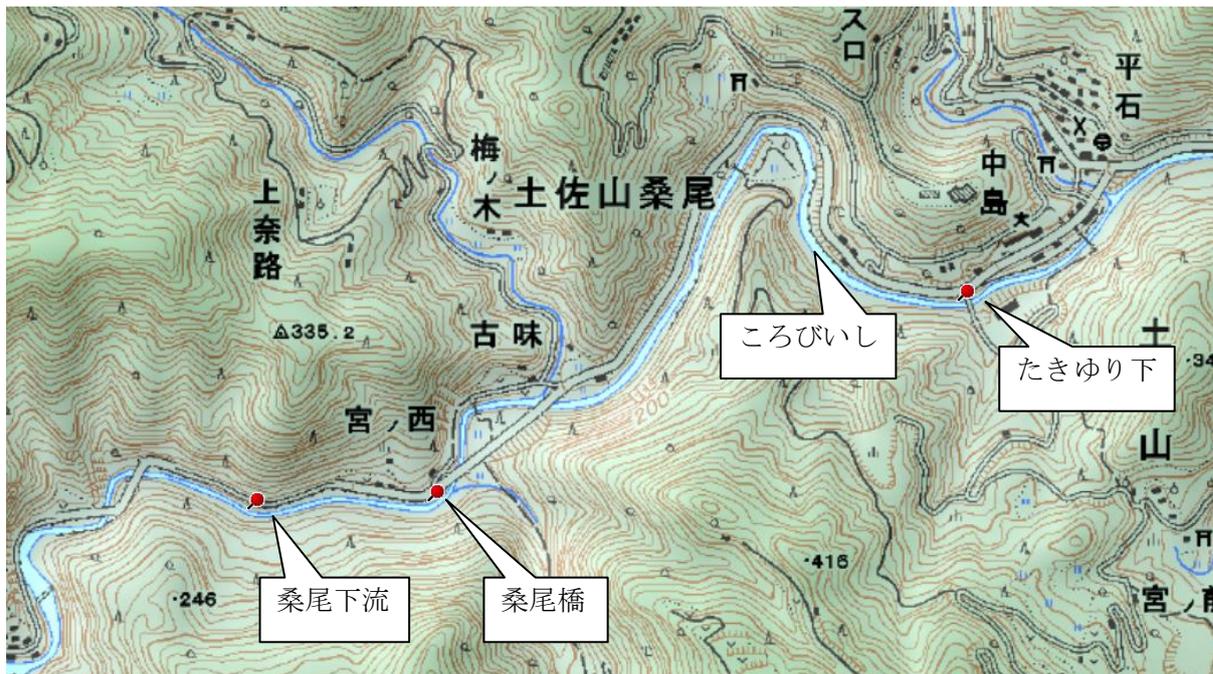


鏡川 放流アユへい死状況調査

平成 26 年 7 月 25 日

調査者 岡部正也・石川徹（内水面漁業センター）



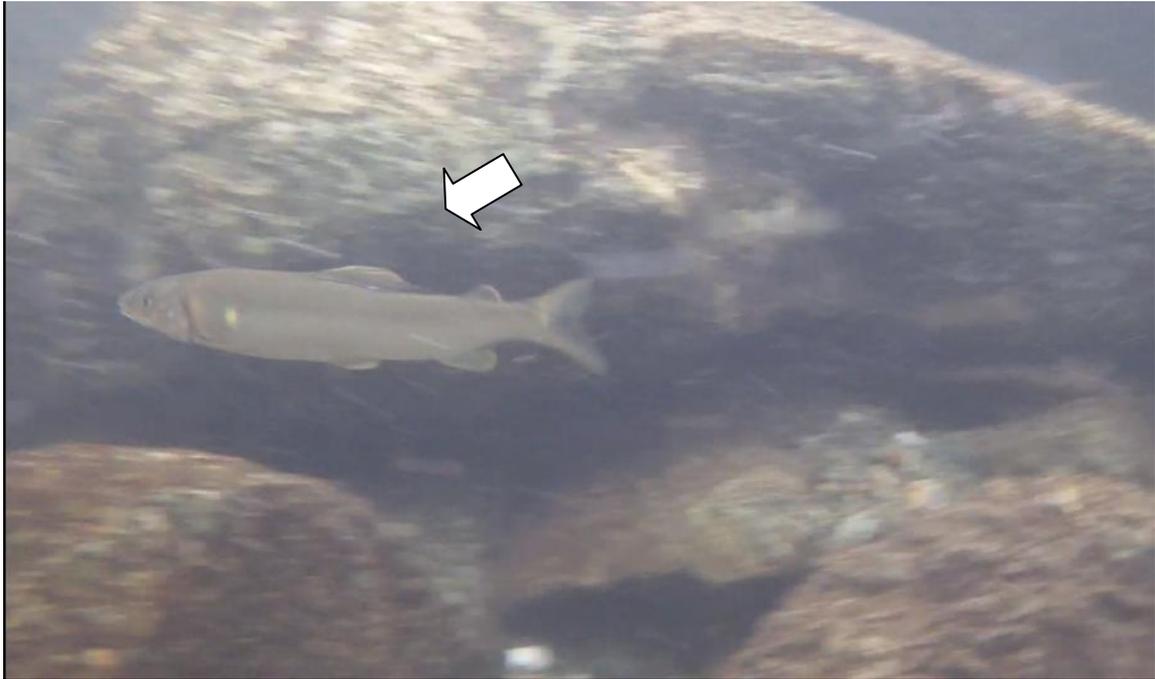
考察

・梅雨明けした 7 月 20 日以降、各調査地点の水温は、気温の上昇に伴い 20℃を大幅に上回った。いずれの調査地点においても、活発に遊泳する大型個体が見られ、とくに上流側のたきゆり下、ころびいしの個体数の増加が顕著であった。また、体側の潰瘍、下顎の欠損など、異常を示す個体は減少しており、新たなへい死魚も認められなかったことから、冷水病はほぼ終息したと見られる。

調査地点	調査時刻	水温(°C)	概況
たきゆり下	13:30	23.9	体重40~100g 数十個体の群れを複数確認した。多くは瀬についており、前回(7月12日)よりハミアトが増加しており、とくに橋より上流では盛んに縄張り行動をとる個体が見られた。また、尾柄部の潰瘍、下顎の欠損のある個体が各1尾見られたが、へい死魚は見られなかった。
ころびいし	14:28	24.7	体重40~100g 数十尾の群れを確認した。異常魚、へい死魚は見られなかった。
桑尾橋	15:00	25.1	桑尾橋上流、つり橋下流側の瀬: 瀬には体重40~100gの個体数十尾、瀬に続く淵には、大型個体、数十~数百尾の群れが見られた。異常魚、へい死魚は見られなかった。 桑尾橋下流: 橋下から50mほど下流の淵にいたる瀬には、50~70g前後の個体がついていた。また、淵には、体重100g前後の大型個体を含む数十尾の群れが見られた。下顎の欠損がある個体が1尾見られたが、へい死魚は見られなかった。
桑尾下流	15:30	25.3	瀬には大型個体が多数見られ、淵には体重40~80g、数十尾の群れが複数見られた。淵に見られる個体は前回より減少したが、多くは活発に遊泳しており、体側の傷、下顎の欠損などの異常が見られる個体はわずかであり、へい死魚は見られなかった。



遊泳するアユ (たきゆり下) 推定体重 40~80g



瀬についたアユ（桑尾下流の瀬）推定体重 80g